

「交差点から見える未来」

福岡市立百道中学校
國友 映見

先月から家の近くの交差点は、いつもと違う光景が広がっている。工事用の車が並び、作業員の方たちが大きな声で合図をしながら道路を整えている。アスファルトの匂いが漂い、金属を打つ音が響いている。車と歩行者を完全に分ける「スクランブル方程」に変えるための工事だという。段差がなくなり、歩道には車の侵入を防ぐボラードという杭が並んだ。さらに、斜めの横断歩道もでき、対角線に渡れるようになった。

信号が青になると、一斉に人々が四方向から歩き出す。今まで回り道していた場所へ、安全にまっすぐ進めることができた。交通量が多い場所だが、信号がLEDになつたことで遠くからでも見やすく、段差がなくなったことで小さな子どもやお年寄りも安心して渡れる。ほんの数分の横断が、こんなにも快適で安全になることに驚いた。

この安全や便利さは、偶然にできたものではない。誰かが計画を立て、働き、お金をかけて作り上げている。そのお金こそが、私たちが納める税金である。家の外を歩くだけでも、道路、図書館、公園、学校、消防署など、税金で支えられている場所は数多くある。当たり前のように利用しているものほど、そのありがたさに気づきにくいのかもしれない。

しかし、日本はこれから大きな課題に向き合わなければならぬ。少子高齢化が進み、働く人は減る一方で、高齢者の医療や介護に必要なお金は増えていく。税収は限られているため、必要なサービスをどう確保するかが急務の課題となる。今は大人たちが支えてくれているが、いずれ私たちの世代がその役割を担う日が必ず来る。その時、税金の仕組みや使い道をきちんと理解していることが、とても大事になるはずだ。

税金は、暮らしを守る大切な柱であり、お互いに助け合うための財源で、豊かで安全な社会を作る力でもある。この柱が弱くなれば安心して暮らせる社会は崩れてしまう。だからこそ、税金の大切さを知り、それを支える行動を続けていく必要がある。

私は、大人になったらきちんと働き、税金を納めたい。それは義務だから、というだけではない。自分も誰かの暮らしを支える社会の一員になりたいからだ。子どもとお年寄りに優しい日本を守るために、少子化のことも含め、これからの中社会について考え続けたい。そして、同じ世代の仲間と分かち合い、どうすればよりよい未来を築けるかを皆と考えていきたい。

人が人を育て、税を納め、互いに支え合い持続可能な社会を支える。この繋がりを私たちの手で未来へ届けたい。これは私たちの世代に委ねられている。その責任をしっかりと受け止めたい。